

トークショー あるがままの自分を愛して

～生きづらさを生きる～

薬害エイズ訴訟原告の川田龍平氏を中心に、生きづらさを背負いながら
いのちと向き合ってポジティブに生きる3人のトークショー。
いのちの大切さと希望を持って生きることへの心のメッセージがきこえます。

あきらめなければ、
できることが
あります。



川田龍平さん

●薬害エイズ訴訟原告・松本大学非常勤講師・人権アクティビストの会代表・龍平学校－PEEK主宰

●東京都小平市在住。血友病治療のための輸血血液製剤投与によりHIV感染。10歳のとき母親から感染を告知され、高校3年生で「薬害エイズ事件」の東京HIV訴訟の原告に加わり、95年実名を公表。ドイツケルンへ留学、2000年帰国後、全国的に講演活動。著書に「龍平の現在(いま)」「薬害エイズ原告からの手紙」(共著)など。未来に希望を持ち、いのち、自然、誇りをはぐくむ社会をつくるために活動中。

ケグ・チャミニさん

●南アフリカ共和国在住 HIV感染者・レイプ被害者
人権活動家・イググレッツ・ケア・サポートグループを主宰

●14歳でレイプ被害に遭い、HIVに感染、妊娠。死の恐怖におびえる日々にも母も亡くし親戚中に拒絶され、娘と二人支えあい生きてきた。南ア国内で人権擁護団体と出会い、人権活動家として生きていく道を選択。2001年に自身のHIV感染を公表。精力的にエイズ問題や犯罪や貧困、虐待など様々な南アの黒人社会の問題にとり組み、啓蒙活動や当事者・被害者支援を行う。闘病を続けながらHIV陽性(ポジティブ)であると同時に「ポジティブ(前向き)に生きたい」と努力を続けている。



人生はチャレンジ。
あるがままの自分
を愛して。

あなたは
あなたである
だけで素晴らしい。

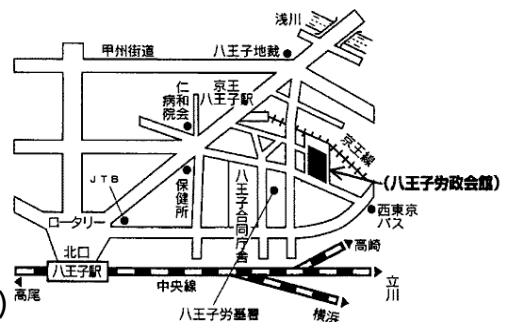


小山えい子さん

●NPO法人多摩草むらの会職員・NGOニバルレキレ事務局代表・精神保健福祉士・社会福祉士・うつ病体験者

●多摩市在住。大学卒業後10年間医療ソーシャルワーカーとして勤務。2001年にうつ病を発症、現在も治療は継続中。2003年から南アフリカ共和国へわたりエイズホスピスで勤務する傍ら、貧困地域での感染者や遺族・遺児の支援活動を始める。サウスアフリカ大学心理学科HIV/AIDSケア・カウンセリングコース修了。日本国内でニバルレキレ展を全国巡回させて講演活動と併せ啓蒙活動に取り組む。2006年よりNPO法人多摩草むらの会職員となる。

日時 平成19年7月1日(日)
時間 14:00～16:30
場所 八王子労政会館 JR八王子徒歩7分
京王線八王子徒歩5分
会費 500円
主催 NPO法人多摩草むらの会
遊夢(就労継続B型事業所)・夢来(共同作業所)



問合せ NPO法人多摩草むらの会 042-339-8022
共同作業所 夢来 042-674-5994

後援団体 東京精神保健福祉士協会・東京国際福祉専門学校・アフリカ日本協議会・
日本国際ボランティアセンター(JVC)・シェア=国際保健協力市民の会・P-LIVE